園の自己評価（2025 年度）

保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、園の保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならないことが明記されています。
よって、保育園きぼうのつばさでは、これに基づき検討・評価を行い、下記のとおり公表いたします。
なお、この結果を踏まえ、次年度の保育計画および保育内容等の改善に活かし、より質の高い保育を提供できるよう努めてまいります。

■保育目標

子ども一人ひとりの発達の連続性を大切にしながら、遊びや生活の中で主体的に関わる力を育み、心と体の調和のとれた成長を目指します。

■2025 年度の取り組みと評価

【うんどう遊び】

日常の保育の中にうんどう遊びを取り入れ、遊びを通して基礎的な運動機能の向上を図りました。
体を動かす経験を積み重ねる中で、転倒時に手をつく、バランスを取るなど、自分の体を守る力が育ち、安全に生活するための基礎が身についてきました。
また、保育者との安心できる関わりの中で取り組むことで、愛着関係を土台とした挑戦する姿が見られるようになりました。
繰り返し取り組む中で「やってみたい」「できた」という経験が積み重なり、自己肯定感や粘り強さといった非認知能力の育ちにもつながっています。
さらに、友だちと関わりながら取り組む中で、相手の気持ちに気づいたり応援し合ったりする姿が見られ、共感力や協調性の育ちにもつながっています。
今後も、発達の連続性を意識しながら、一人ひとりの育ちに寄り添ったうんどう遊びを継続し、心と体の両面からの成長を支えていきます。

【保育ドキュメンテーション・情報発信】

日々の保育の中での子どもたちの姿や育ちを記録し、保育ドキュメンテーションとして可視化する取り組みを行いました。
子どもの姿を言語化し共有することで、職員間での保育の理解が深まり、保育の質の向上につながっています。
また、保育ドキュメンテーションを通して保護者に保育の意図や子どもの育ちを伝えることで、安心感や信頼関係の構築にもつながっていました。
なお、園だよりやブログ等も活用しながら、園としての取り組みを分かりやすく発信しました。
今後も、保育の見える化を大切にしながら、より伝わる発信に努めていきます。

【地域・交流活動】

園開放や育児講座を通して地域の子育て家庭への支援を行うとともに、世代間交流や姉妹園、小学校との交流を実施しました。
様々な人との関わりを通して、思いやりや社会性の育ちにつながる機会となりました。
また、関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の気持ちに気づいたりする姿が見られ、協調性やコミュニケーション力の育ちにもつながっています。
今後も継続しながら、内容の充実を図っていきます。

【食育】

食材に触れる体験や座学を通して、食への興味関心を高める取り組みを行いました。食材に触れることで、食の大切さや楽しさを感じる姿が見られました。
また、自ら関わる経験を通して主体性や探究心が育まれ、「やってみたい」という意欲につながっています。
今後も体験を大切にした食育活動を継続していきます。

■保護者アンケート結果

保護者アンケートでは、保育内容や行事について概ね良好な評価をいただきました。いただいたご意見を真摯に受け止め、改善に努めてまいります。

■今後の課題と取り組み

今年度は、うんどう遊びや体験活動、地域との関わりに加え、保育ドキュメンテーションを通して子どもたちの育ちを可視化し、主体性や思いやり、自己肯定感の育ちにつながる保育を展開することができました。
一方で、行事の取り組みや発信の在り方など、改善すべき点も見えてきました。
今後は、職員間での共有をより一層深めるとともに、保護者の声を反映しながら、子ども一人ひとりの発達の連続性を大切にした保育の充実に努めてまいります。